

2021年度関西四大学 薬物に関する意識調査

集計結果 報告書

これまで、大学生の大麻等不正薬物の所持・乱用による事件事故が相次いで発生し、薬物汚染が大きな社会問題に発展しました。こうした状況の下で、各大学における薬物に関する教育活動が喫緊の課題となり、2009年3月7日に関西四大学は、薬物乱用防止に関する共同声明を発表しました。健康で充実したキャンパスライフを学生に保障するとともに、より広い視点に立ち、安全・安心の社会を実現するための教育・研究、そして社会的な活動を大学の使命ととらえ、薬物乱用防止のための恒常的・経常的かつ組織的な啓発活動を行い、広く社会に向けてその活動を展開していくことを宣言しました。

その具体策として、共同のアクションプランを企画し、共同声明の発表以降、3つのアクション「委員会の開催・設置」、「教育・調査活動」、「広報活動」を柱に各大学で様々な取り組みを実施してきました。「関西四大学薬物乱用防止連絡会」の設置・開催をはじめ、学生参加のキャンペーンを行い、さらに講演会も開催してきました。

こうした活動の一つとして、2009年10月から関西四大学共同の「薬物に関する意識調査」を開始し、同調査も今年度で13年目を迎えます。

現在の日本における薬物乱用に関する社会情勢について、警察庁組織犯罪対策部発表の「令和2年における組織犯罪の情勢（第2章：薬物・銃器情勢）」によると、薬物事犯検挙人員は近年横ばいが続いていますが、わずかではありますが増加しています。また、大麻事犯検挙人員は、20歳代以下の若年層を中心に2014年以降増加が続き、2020年も過去最多となった前年を大幅に上回っています。覚醒剤の密輸入押収量も依然として高水準にあり、大麻栽培事犯の検挙人員も近年増加傾向にあります。覚醒剤事犯検挙人員は、依然として薬物事犯全体の検挙人員の6割以上を占めており、加えて、大麻事犯検挙人員については、前年に続いて過去最多を更新しており、大麻事犯における若年層の増加傾向に歯止めをかける必要があるといえます。

また、昨今では乱用した者が重篤な症状を起こして救急搬送されたり、重大な交通事故を引き起こしたりするなど社会問題化し、「危険ドラッグ」と総称された薬物について、政府は2014年4月に薬事法を改正（「医薬品医療機器法」）し、対策を強化しています。その結果、危険ドラッグの使用が原因と疑われる死亡事案が大幅に減少するなど、その対策に一定の効果が上がっている一方、インターネットを利用して密売されるなど流通ルートが潜在化しており、今後の動向を引き続き注視する必要があります。

私たちは、関西四大学共同の「薬物に関する意識調査」を今後も継続して実施することにより、学生の薬物に対する意識と態度等、若年層における薬物事情の変遷を明らかにし、さらなる薬物乱用防止策の企画立案に役立てるだけでなく、社会に対して警鐘を鳴らすことができるのではないかと考えています。

なお、質問項目については、大麻が中心であったものから、2015年に「危険ドラッグ」を含む、危険な薬物全般について調査する内容に変更しています。今回も同様に、大学入学前の中学・高校等における啓発活動の成果も反映させるべく、関西四大学の入学直後の新生を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、新生が大学入学以前から薬物乱用防止に関する教育を受け、さまざまな形で薬物についての情報に接しているほか、引き続き、ごく少数であっても薬物に接触する危険性があることが明らかになりました。

関西四大学では、2009年10月から続くこの調査結果について、真摯に受けとめ、今後さらに慎重に検討を加え、引き続き薬物乱用防止のための教育活動を展開していきます。加えて、他の教育機関の諸活動においても今回の調査結果が役立つことを願っています。

2022年3月

| | |
|----------|-------|
| 関西大学学長 | 前田 裕 |
| 関西学院大学学長 | 村田 治 |
| 同志社大学学長 | 植木 朝子 |
| 立命館大学学長 | 仲谷 善雄 |

I 調査対象

対象者数 : 2021年度入学生 26,818名 (関西四大学合計人数)
 実施期間 : 各大学により定められた期間 (2021年4~6月)
 調査方法 : WEB アンケート *新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、2020年度は
関西四大学での結果集計は実施しなかった。
 回答数(率) : 14,074名 (52%)

II 集計結果

各質問への回答状況は、次ページ以降のグラフ及び集計表のとおりである。

◇質問1 あなたは、薬物乱用問題について関心がありますか。(1つ選択)

| ＜回答＞ | 2021年度 | 参考値 |
|-----------|--------|--------------------|
| 非常に関心がある | 5.0% | 2019年度との比較+2.3ポイント |
| ある程度関心がある | 34.6% | 2019年度との比較+3.0ポイント |
| どちらともいえない | 27.6% | 2019年度との比較+1.2ポイント |
| あまり関心がない | 14.1% | 2019年度との比較-0.8ポイント |
| ほとんど関心がない | 18.7% | 2019年度との比較-5.7ポイント |

*過去の調査と比較すると、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の合計が「あまり関心がない」「ほとんど関心がない」の合計を初めて上回っており、薬物問題への関心は高くなりつつあることが伺える。

◇質問2 あなたは、次の薬物の名前を知っていますか。(複数選択可)

| ＜回答＞ | 2021年度 | 参考値 |
|-------------------------|--------|---------------------|
| 有機溶剤 (シンナー、トルエンなど) | 72.9% | 2019年度との比較+2.7ポイント |
| 覚せい剤 (シャブ、スピード、エスなど) | 87.7% | 2019年度との比較-4.4ポイント |
| 大麻 (マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど) | 93.8% | 2019年度との比較+0.2ポイント |
| コカイン (コーク、スノウ、クラックなど) | 81.0% | 2019年度との比較-11.4ポイント |
| あへん類 (ヘロインなど) | 60.9% | 2019年度との比較-1.2ポイント |
| LSD(アシッド、フェニックス、ドラゴンなど) | 19.5% | 2019年度との比較+2.9ポイント |
| MDMA(エクスタシーなど) | 61.2% | 2019年度との比較+2.8ポイント |
| いわゆる危険ドラッグ (脱法ハーブなど) | 71.9% | 2019年度との比較+1.5ポイント |
| 知っているものはない | 2.8% | 2019年度との比較+0.4ポイント |

*覚せい剤やコカインに関する認知は下がっているものの、有機溶剤、大麻、LSD、MDMA及び危険ドラッグなどの認知が高まりつつある。

◇質問15(ア) あなたの周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つ選択)

| ＜回答＞ | 2021年度 | 参考値 |
|--------|--------|--------------------|
| いない | 91.2% | 2019年度との比較+4.7ポイント |
| いる(いた) | 2.4% | 2019年度との比較-1.4ポイント |
| わからない | 6.4% | 2019年度との比較-3.3ポイント |

*「いない」という回答がもっとも多く、増加傾向にある。

◇質問15(イ) [質問15(ア)で「2 いる(いた)」に○をつけた人だけお答えください] どの薬物でしたか。(複数選択可)

| ＜回答＞ | 2021年度 | 参考値 |
|-------------------------|--------|--------------------|
| 有機溶剤 (シンナー、トルエンなど) | 7.9% | 2019年度との比較-2.7ポイント |
| 覚せい剤 (シャブ、スピード、エスなど) | 11.2% | 2019年度との比較+2.3ポイント |
| 大麻 (マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど) | 57.9% | 2019年度との比較+7.2ポイント |
| コカイン (コーク、スノウ、クラックなど) | 5.0% | 2019年度との比較+0.1ポイント |
| あへん類 (ヘロインなど) | 2.1% | 2019年度との比較+0.7ポイント |
| LSD(アシッド、フェニックス、ドラゴンなど) | 6.8% | 2019年度との比較+3.7ポイント |
| MDMA(エクスタシーなど) | 4.1% | 2019年度との比較+0.5ポイント |
| いわゆる危険ドラッグ (脱法ハーブなど) | 6.5% | 2019年度との比較+0.2ポイント |
| わからない | 30.0% | 2019年度との比較+1.3ポイント |

*引き続き大麻の比率が高い傾向にあり、増加傾向にある。また、覚せい剤やLSDなども増加傾向にある。

◇質問19(ア) あなたは、これらの薬物を入手可能と考えますか。(1つ選択)

| ＜回答＞ | 2021年度 | 参考値 |
|----------|--------|---------------------|
| 不可能だ | 37.9% | 2019年度との比較+15.7ポイント |
| かなり難しい | 25.1% | 2019年度との比較+2.8ポイント |
| 難しいが手に入る | 25.3% | 2019年度との比較-12.5ポイント |
| 手に入る | 11.7% | 2019年度との比較-6.1ポイント |

*「不可能だ」「かなり難しい」など、入手不可能だと考えている人が増加する傾向にあり、「難しいが手に入る」「手に入る」など、入手可能との回答が減少傾向にあった。

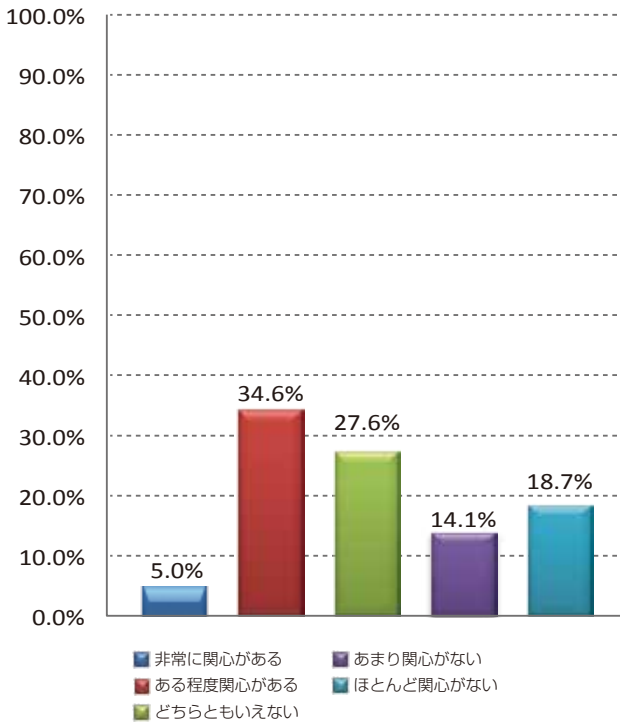
◇質問19(イ) [質問19(ア)で「3 難しいが手に入る」または「4 手に入る」に○をつけた人だけお答えください] 入手可能と考えた理由は何ですか。(複数選択可)

| ＜回答＞ | 2021年度 | 参考値 |
|-----------------------------------|--------|--------------------|
| SNS やインターネットで探せば見つけることができると思うから | 90.6% | 2019年度との比較+5.7ポイント |
| SNS やインターネットで販売されているのを見かけたことがあるから | 7.6% | 2019年度との比較+2.9ポイント |
| それ以外 | 7.8% | 2019年度との比較-4.4ポイント |

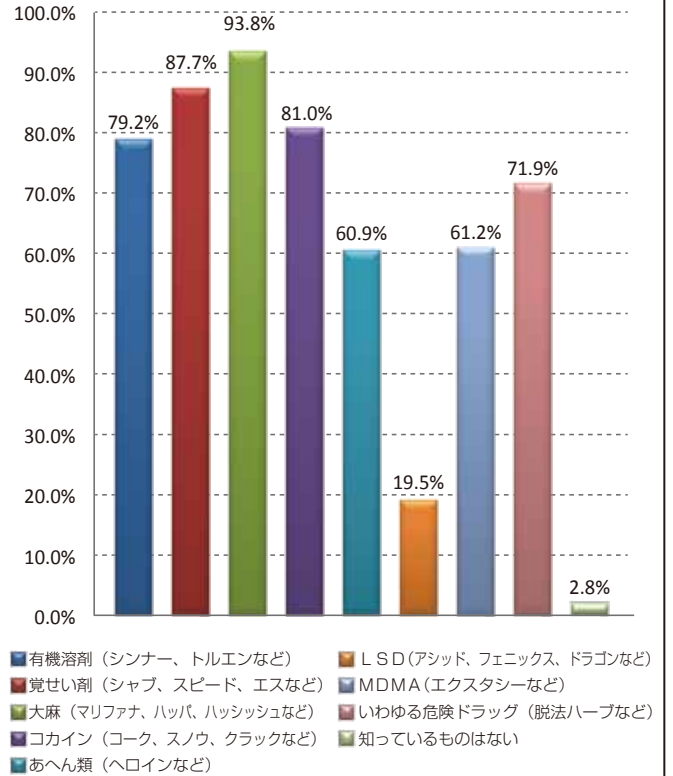
*入手可能と考えた理由について、大半が「SNS やインターネットで探せば見つけることができると思うから」と答えており、その割合は増加傾向にある。

関西四大学「薬物に関する意識調査」

共通質問 1) あなたは、薬物乱用問題について関心がありますか。(1つ選択) N=14,080

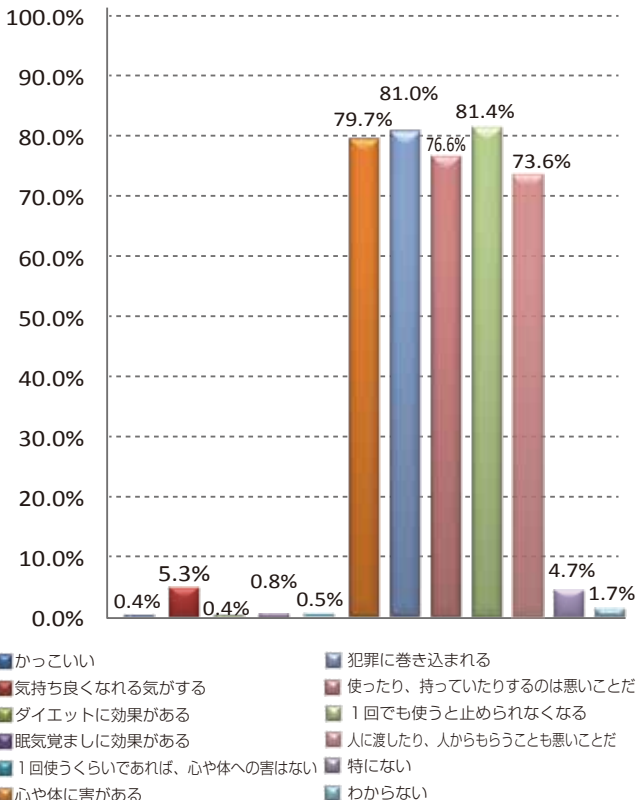


共通質問 2) あなたは、次の薬物の名前を知っていますか。(複数選択可) N=14,075

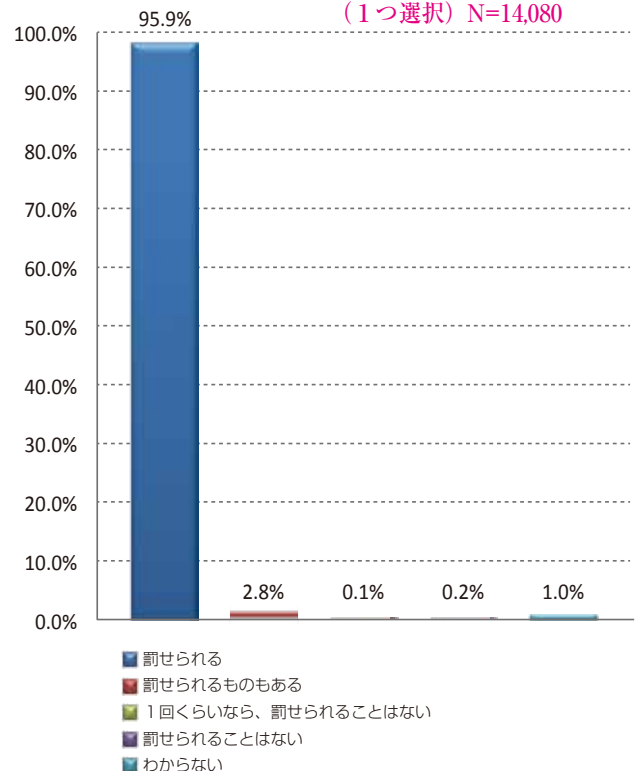


※次の質問 3)以降は、質問 2)であげた薬物についてお聞きします。

共通質問 3) あなたは、これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数選択可) N=14,079

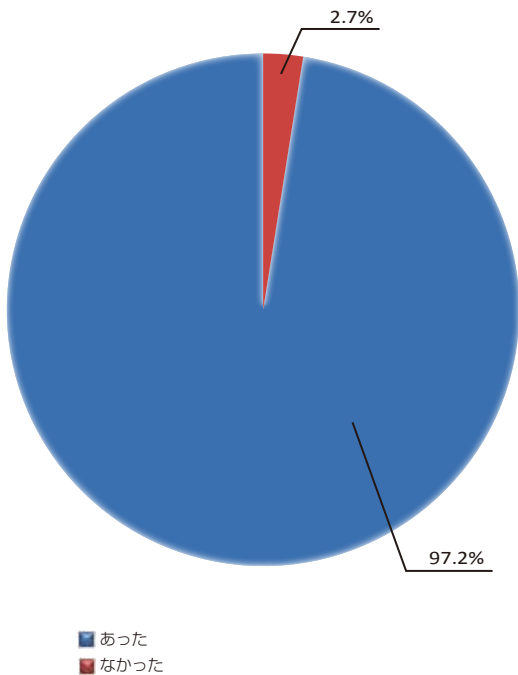


共通質問 4) あなたは、これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、また、他人に譲渡したり、譲渡された場合、どうなると思いますか。(1つ選択) N=14,080

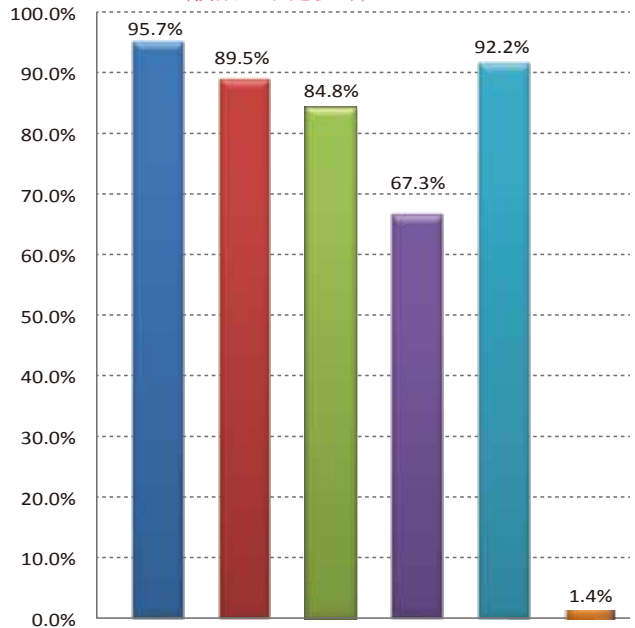


関西四大学「薬物に関する意識調査」

共通質問 5) あなたは、これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありますか。
(どちらかを選択) N=14,080

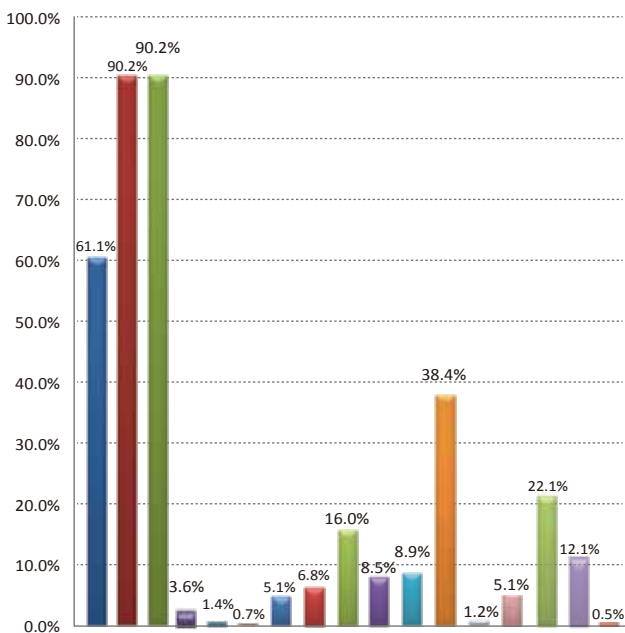


共通質問 6) あなたは、薬物を使った場合、以下になることがあるのを知っていましたか。
(複数以下選択可)

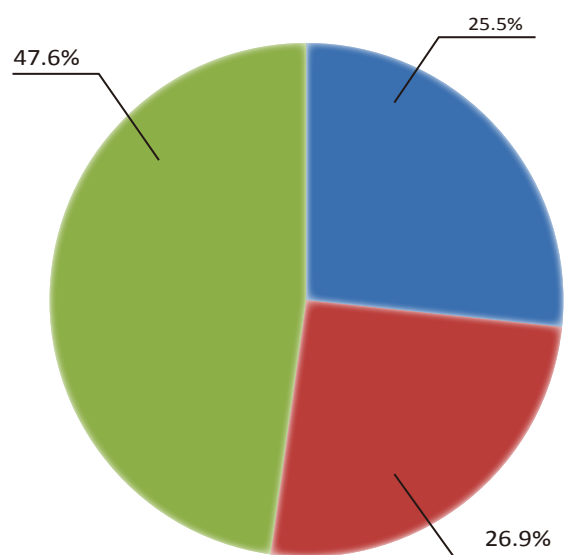


- 現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある
- わけもなく怯えたり(妄想気分)、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとることがある
- 自分の行動に干渉する声が聞こえる(幻聴)ことがある
- 何事にも関心が持てず、結果的に学校や職場を欠席しがちで、どんな仕事に就いても長続きしなくなる
- 依存性があり、意思の方ではなかなかやめることができない
- 知らなかった

共通質問 7) あなたは、これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数選択可)
N=14,077



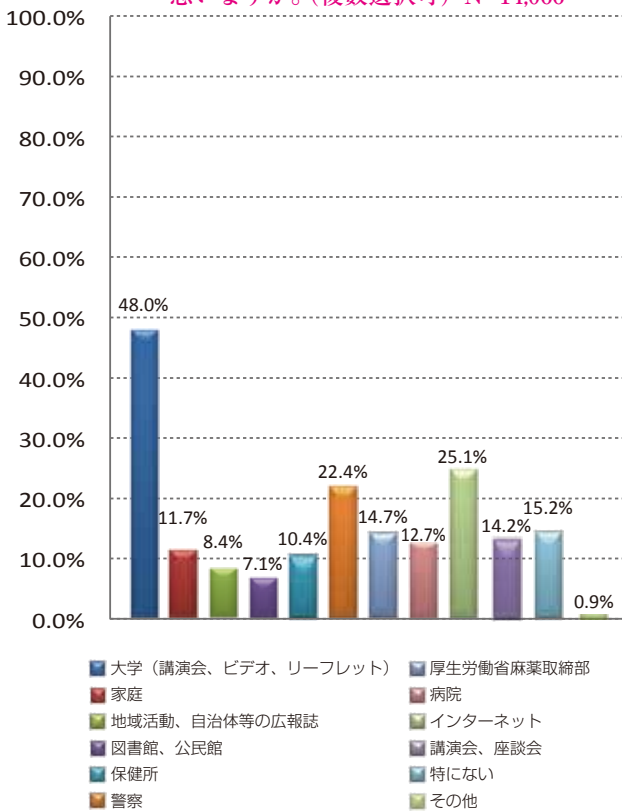
共通質問 8) あなたは、これらの薬物を使うことの怖さ(有害性、危険性)をもっと知りたいですか。
(1つ選択) N=14,080



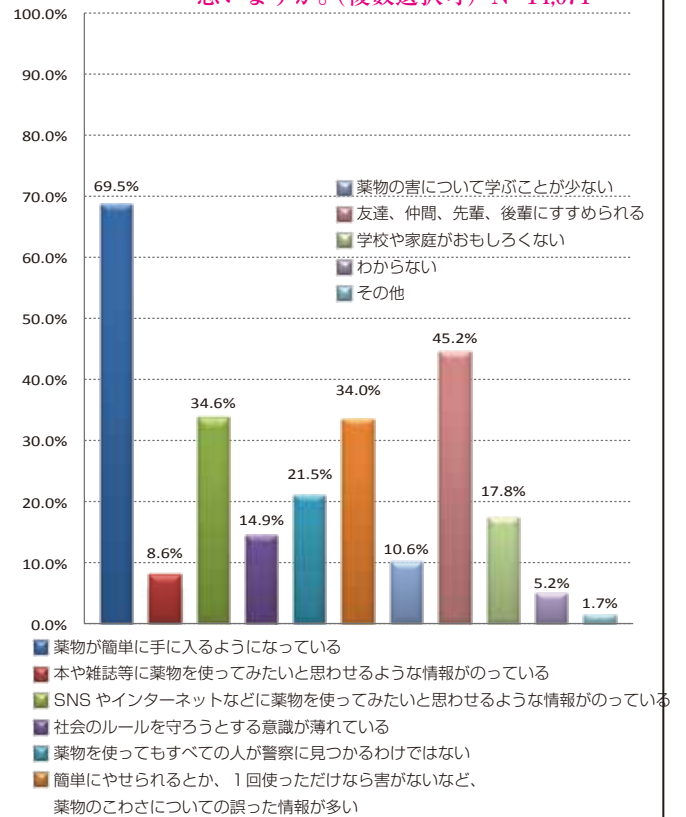
- 知りたい
- 知りたいとは思わない
- どちらでもない

関西四大学「薬物に関する意識調査」

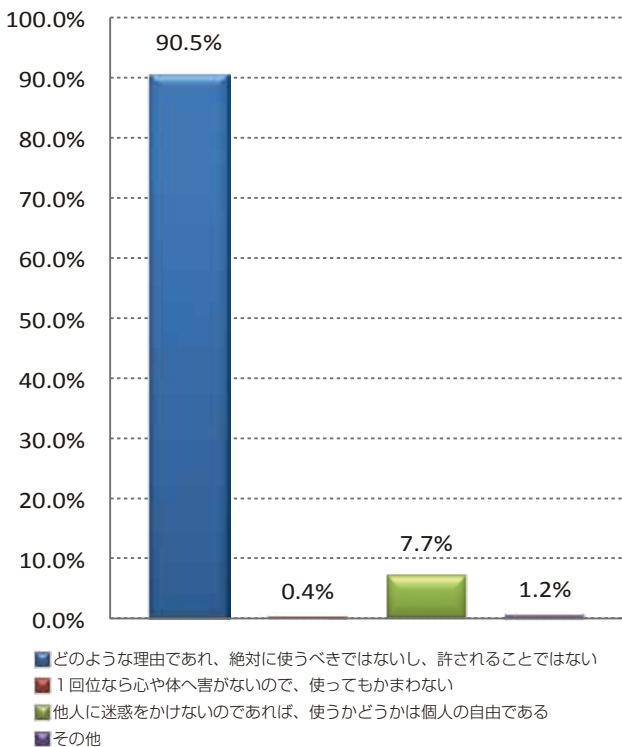
共通質問 9) あなたは、これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数選択可) N=14,066



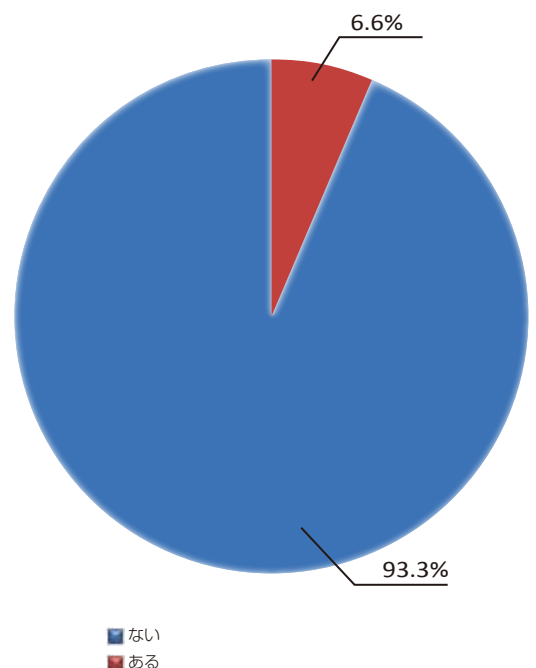
共通質問 10) あなたは、これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思いますか。(複数選択可) N=14,071



共通質問 11) あなたは、これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。(1つ選択) N=14,080

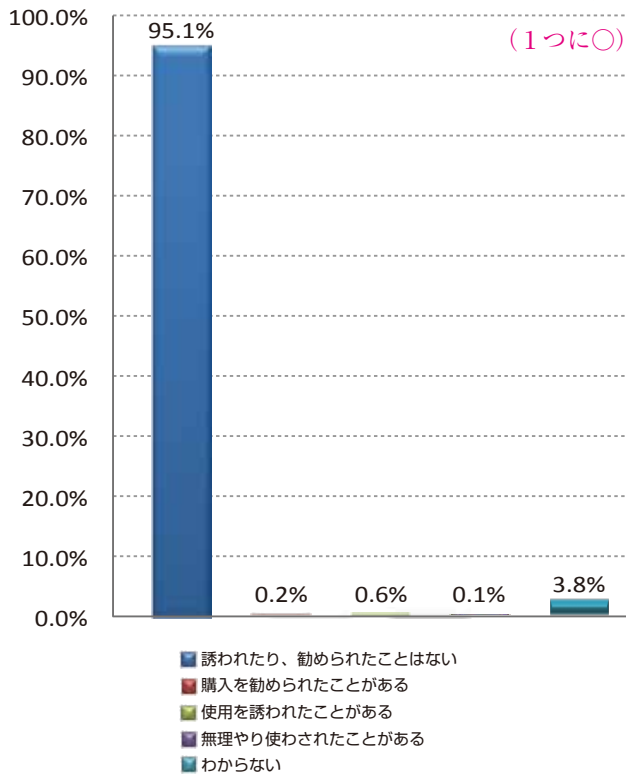


共通質問 12) あなたは、これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。<テレビ、映画、報道等で見たものは除きます> (どちらかを選択) N=14,080

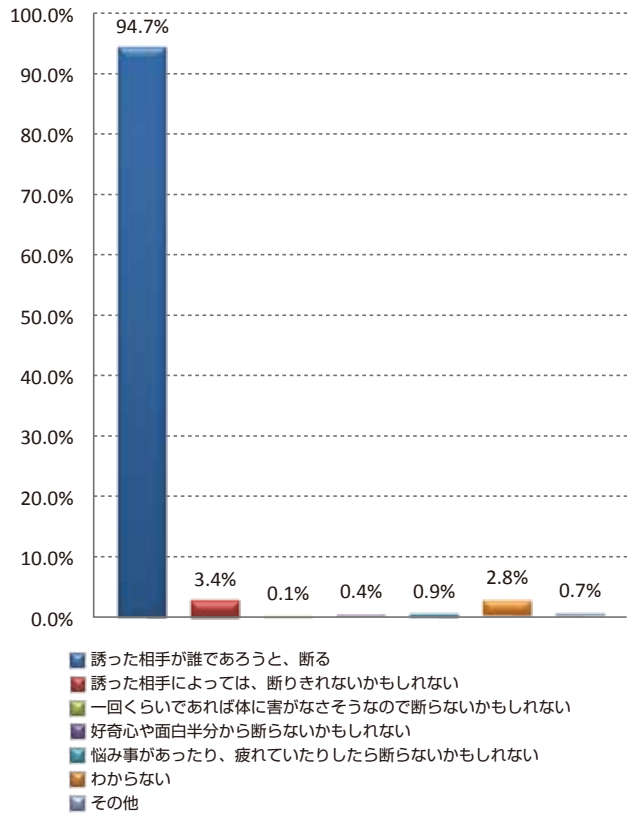


関西四大学「薬物に関する意識調査」

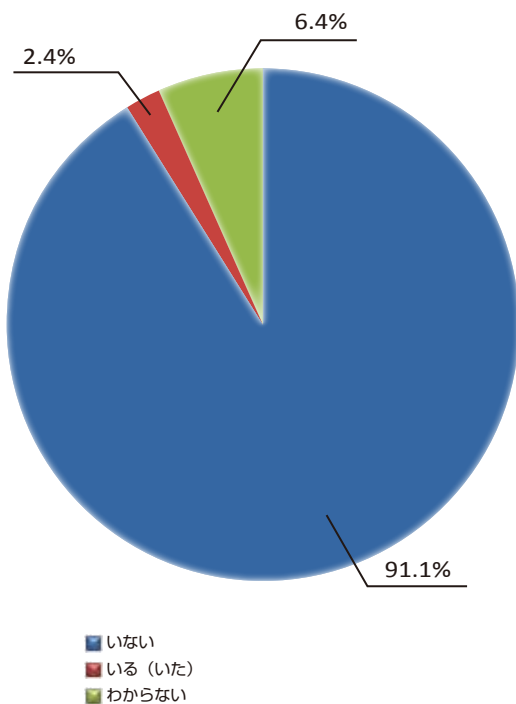
共通質問 13) あなたは、これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(1つ選択) N=14,080



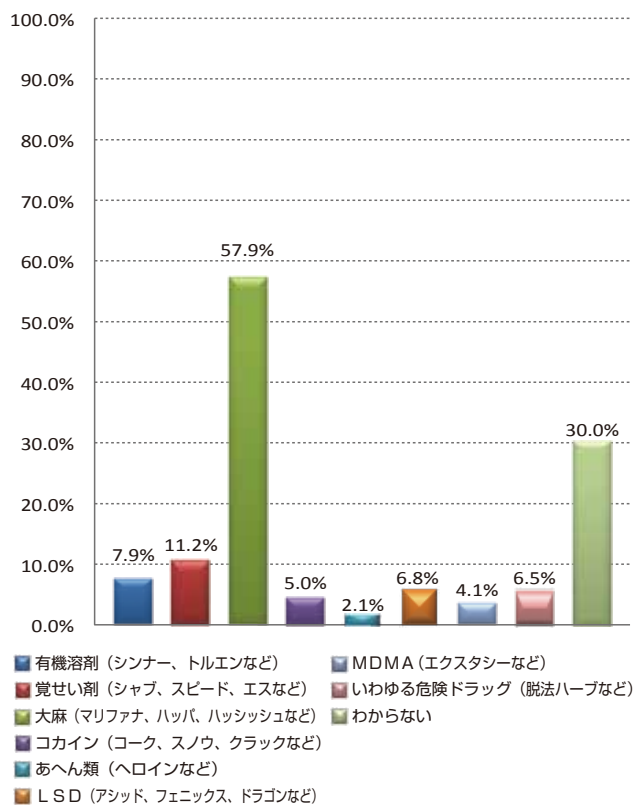
共通質問 14) あなたは、これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数選択可) N=14,066



共通質問 15 ア) あなたの周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか。(1つ選択) N=14,080

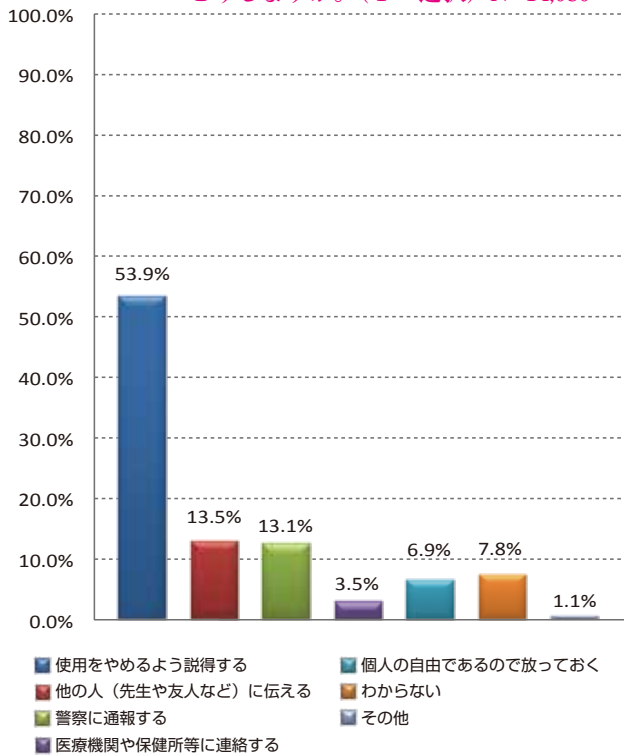


共通質問 15 イ) どの薬物でしたか。(複数選択可) N=340

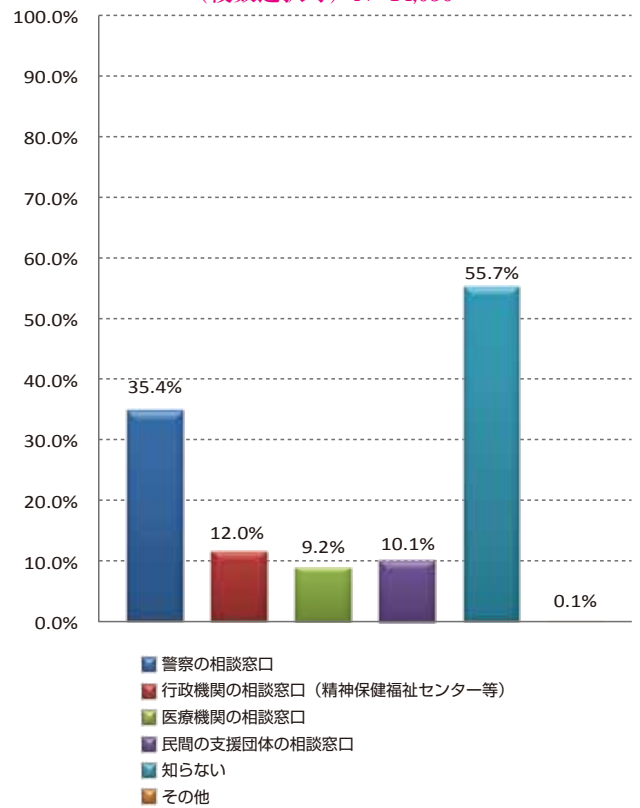


関西四大学「薬物に関する意識調査」

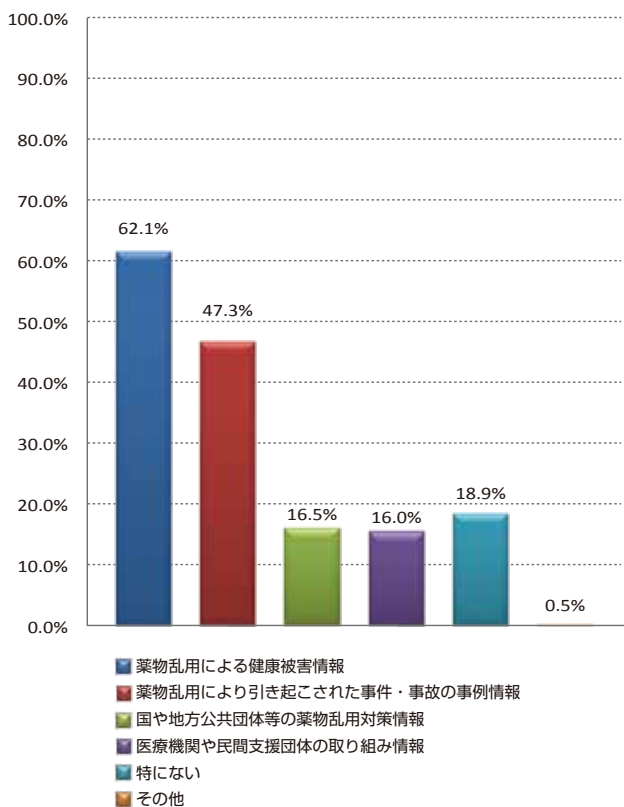
共通質問 16) あなたは、もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。(1つ選択) N=14,080



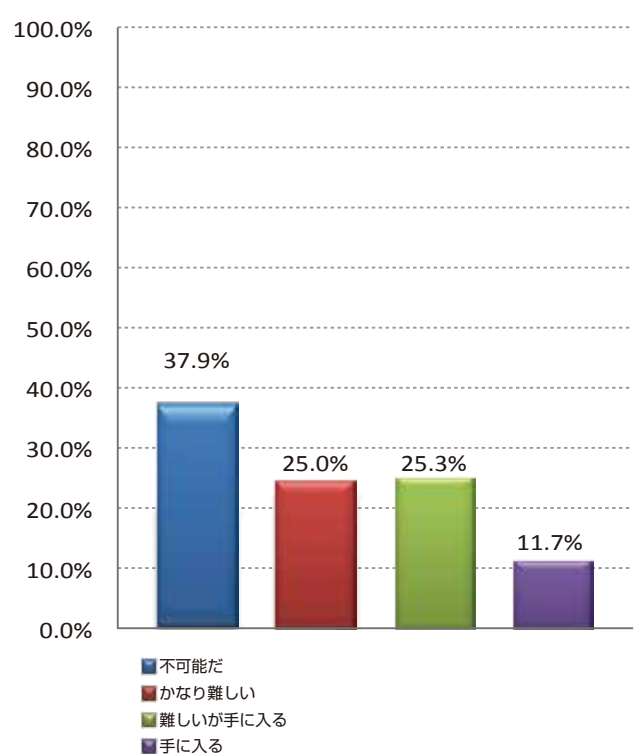
共通質問 17) あなたは、これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数選択可) N=14,056



共通質問 18) あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数選択可) N=14,060

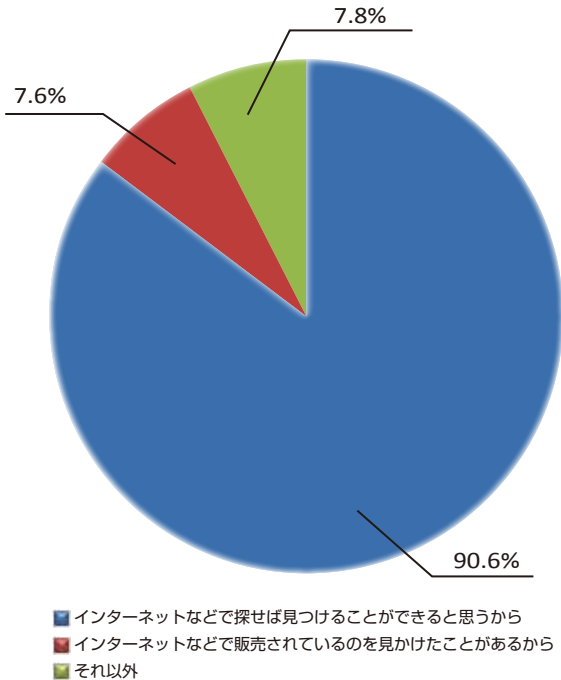


共通質問 19 ア) あなたは、これらの薬物を入手可能と考えますか。(1つ選択) N=14,080

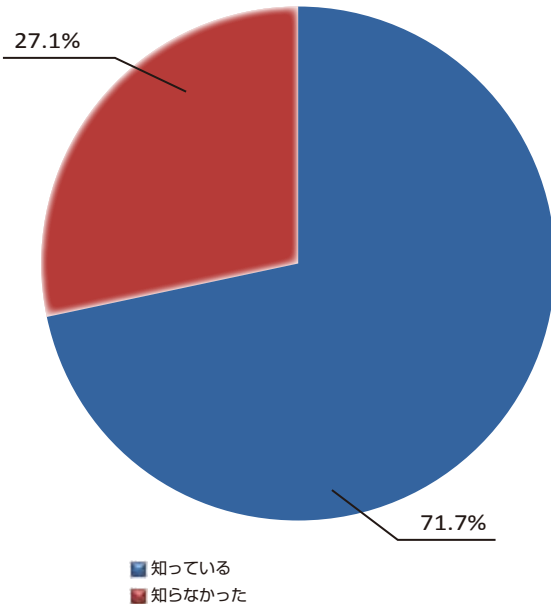


関西四大学「薬物に関する意識調査」

共通質問 19 イ)【質問 19 ア) で「3 難しいが手に入る」「4 手に入る」を選択した人だけお答えください】
入手可能と考えた理由は何ですか。
(複数選択可) N=5,180



共通質問 20) あなたは、薬事法の一部改正 (平成 26 年 4 月 1 日施行) により、危険ドラッグと称される薬物や商品 (脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど) の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つ選択) N=14,080



薬物に関する相談窓口

兵庫県の薬物乱用問題に関する相談及び指導等

| | |
|---------------|--------------|
| 兵庫県精神保健福祉センター | 078-252-4980 |
| 神戸市精神保健福祉センター | 078-371-1900 |
| 兵庫県薬務課 | 078-362-3270 |

関西学院大学内

| | |
|-----------------------|--------------|
| 保健館 (西宮上ヶ原キャンパス) | 0798-54-6023 |
| 保健館 (神戸三田キャンパス) | 079-565-9045 |
| 保健館 (西宮聖和キャンパス) | 0798-54-6509 |
| 学生活動支援機構 (西宮上ヶ原キャンパス) | 0798-54-6110 |

